

## レイ・プランツの品目の充実を目指した栽培および出荷技術の確立

～プルメリアの品種比較と収益について試算しました～

プルメリアはフラ業界から人気があり、島内生産が期待されています。そこで、プルメリア5品種「ドワーフ・シンガポール・ピンク (DSP)、セラダイン (Cd)、マヤ (My)、インディア (Id)、ポールウェッチ (PW)」の特性や収量を調査し、生花を出荷する場合の収益について試算しました。

実施機関	八丈事業所	事業名	伊豆諸島における農業振興技術対策
------	-------	-----	------------------

### (背景・ねらい)

八丈島ではレイ・プランツとして主にティー・リーフ (葉物) が生産されていますが、フラ業界からは花物への要望も高まっています。そこで、花を利用するレイ・プランツの特性把握や栽培および出荷技術を確立し、八丈島におけるレイ・プランツ生産の拡充を目指します。

### (成果の内容・特徴)

#### ① 品種特性

花色は品種により、白、黄、赤など様々でした (図1)。花径はDSPとMyが小さく、それ以外は大きめでした。開花数はDSPが著しく多く、大輪系の中ではCdが最も多くなりました (表1)。樹勢はIdとPWが旺盛で、DSP、Myが穏やかでした (図2)。

#### ② 品質保持期間

花茎ごとに収穫した花の品質保持期間 (花卉に褐色斑点ができるまでの日数) を調べた結果、30℃で保存した場合は約3日であったのに対し、8℃では約11日となりました。この際に、水差しの有無は保存期間にあまり影響を与えませんでした (品種Dsp)。

また、30℃条件における品質保持期間は、品種Cdで約4日、DspとPwは約3日、Idはそれらの中間でした (Myは未検討)。

#### ③ 年間労働時間

1aあたり年間労働時間は、栽培1年目で171時間、うち82%を葉水および灌水管理が占めました。出荷が始まる2年目以降は、年間で239時間、うち、葉水および灌水が50%、出荷調整が32%を占めました。灌水を自動化することで労働時間を削減することが可能です。

#### ④ 花出荷のための収益計算

必要経費と開花数をもとに試算した結果、栽培面積1aの場合、1花あたりの販売単価127円で黒字収支、581円で300万円の所得、1,034円で600万円の所得が得られました (表2)。

また、栽培面積を増やすことで、販売単価を大きく下げられる計算となりました。

### (成果の活用と反映)

今のところ、国内での流通実態が明らかでないことから、新規品目として導入するには引き続き、市場調査や輸送方法の検討が必要と考えます。なお、レイ・プランツとしての利用のほか、鉢物、植木、装飾花材、香料原料としての需要の高まりも期待されています。

(下野 大輝)



図1 各品種の花の写真

表1 各品種の開花数 (2019年)

調査月	DSP	Cd	My	Id	PW
4月	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	5	4
6月	109	0	0	30	98
7月	891	0	0	28	34
8月	1856	58	0	61	23
9月	2056	144	0	119	54
10月	1909	199	0	131	25
合計	6821	401	0	374	238

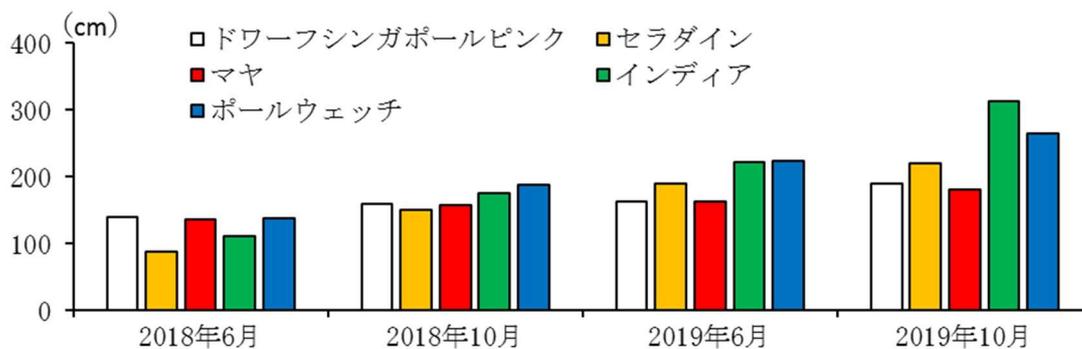


図2 各品種の樹高推移

表2 生花の販売価格 (円/1花)

目標所得	栽培面積			
	1a	2a	5a	10a
0円	127	123	123	122
300万円	581	351	214	168
600万円	1034	578	304	213